

平成 23 年度 すぎなみ大人塾 昼・夜合同成果発表会

平成 24 年 3 月 3 日 (土) 午後 13 時 30 分

会場：セッション杉並 3 階集会室

1 はじめに

杉並区教育委員会事務局 社会教育スポーツ課長 植田敏郎

本当に何かに燃えているかたはキラキラ輝いていらっしゃいます。今日は、皆様の 1 年間の取り組みを拝見させて頂こうと思ひ、こちらに参加させていただきます。昨年の 311 以来、社会の仕組みは大きく変わりました。杉並区としても、復興支援のためにいち早く動き、2 億円も義援金が集まりました。今後とも、こちらの支援活動には、ご協力して頂きたいですが、3.11 以降、学んだのは絆です。地域の方々からの学び、関係づくりの中で絆を強く感じました。地震のあと、地域から助けられたという声も多く聞いております。地域の方のチカラがとても大きかったのです。

皆様は、今日の発表で終わりではなく、今後も地域で課題をみつけ、解決にむけて歩まれると思います。去年、発表を聞いたときは、こんなに課題をみつけられたことに關心しました。先生や OB の方のおかげで毎年、大きくなって感謝しております。後半のワールドカフェは自由な発想で出し合うのは素晴らしいと思います。後半の参加も楽しみにしています。大人塾が終わったあとも、活躍していらっしゃる方がいます。皆様にも、ぜひ大きく羽ばたいていただきたい、住みよい杉並区づくりにご協力していただけたらと思います。

2 昼コース発表

1) MAP づくりチーム

杉並わがマップということで取り組みました。テーマは、杉並区のおすすめの自然とお店を中心に作りました。高井戸、荻窪、阿佐ヶ谷の今と昔を比べてみました。まず、自然のコースは、「フクロウ」を主人公にして説明をしていきます。フクロウですので、あちこちいきますがご承知ください。

まず、善福寺公園です。公園の鳥、自然、カモ、コゲラなどバードウォッチングが盛んです。善福寺川は整備が進んでいるので、歩くのがとても楽しいです。ここから下ると、白檟橋です。サクラも見応えがありますが、セミの群生地でもあります。和田堀公園もサクラの名所ですし、遺跡もあるので散歩コースとしても最適です。最後は、神田川につながりますね。神田川もお勧めです。ここもサクラの名所です。柏の宮公園は開園して 10 年ほどですが、ビオトープが盛んで、地域の人々や小学生が参加しています。久我山のあたりから、玉川上水につながります。この辺りは、昔の面影が残っています。自然が豊富な杉並区を楽しんでいただけるので、お勧めしたいです。

高井戸、荻窪、阿佐ヶ谷の今と昔、40年前程とを比べています。昔は田んぼが多かったですね。荻窪も、長い時間がかかって、今のような状態になりました。

次は、お勧めのお店のコースです。私の娘が大きな地図を作ったことを聞いたのがきっかけです。また、メンバーの自宅の周りを紹介しあうのも自慢となります、自分見せにもつながります。まだまだ空白が多い地図ですが、永久に完成しない地図と呼びたいと思います。というのは、皆さんにどんどん書き込んでいただいて、ご紹介しあえればと思います。どんどん変化していきますが、変わらないものを見つけたいと思います。ご近所との挨拶や助け合い、モノに対する好奇心などは残したいと思っています。メンバーの得意なところを活かしながら、作りました。これからは春になるので、もっと華やかになるでしょう。



2) おりがみ作品発表

「手作りのものをおすそわけしましょう」ということになりまして、私は昔から折っております「お雛様」にしました。軽くてコンパクトなので、外国人にも喜ばれています。季節のおたよりにも便利です。今回は、男性の方もいるので、誰でもできるようなものを考

えてみました。

アメフトの観戦に行った折りに、応援グッズを発見しました。応援グッズは、捨てないようには言われていますが、たいてい捨てられています。これを活かしたものを作ろうと考えました。折り目をいかして、くるくると1年の万華鏡を作ろうと、立体は邪魔になってかさばるので、平面にして作りました。私の1年の成果を写真にして貼ってみました。



箱遊びでは、もっと単純に、縦横に動くものや六面体を開くと花になるものを作りました。福島にいったおりには、子どもなのでハデに動くものを作りました。このように大人塾のイベントにあわせて、折り紙をつくりました。上質な紙だけではなく、パンフレットなどを作れば、いつでもどこでも作れます。生活の中で、ちょっとした潤いになればと思います。松田先生にのせられ、いろんなこともしました。1年間、楽しかったです。感謝しております。

3) 個人発表 広瀬さん

杉並がすごく好きです。杉並は都会の中でも自然に恵まれています。善福寺川では四季が楽しめますし、公園も整備されています。私は、2つあります。1つは、杉並の自然。特に生活風景に注目しました。杉並の生活風景のカレンダーを制作しました。CDのケースにしたカレンダーは、見やすいと思っています。カレンダーと写真のバランスがよいですし、日常生活に役立っています。キッチンやパソコンの横にも置けますしね。善福寺川沿いや子どもたちが遊んでいる姿や済美児童公園で親子が過ごしている姿を写真にとり、カレンダーにしました。もう1つは、インテリアオブジェです。素材は自然素材で作りました。

先生、クラスの皆さん、ご指導ありがとうございました。



4) お雑煮の地図チーム

杉並の広報をみて、だがしや学校に来ました。知っているようで知らなかったこと、新しいことを知ることは、ほんとにワクワクします。

私たちは、お雑煮の地図を作りました。話しているうちに、お雑煮の違いの多さに驚き、じゃあ、どうしてお雑煮はこんなに違うのかを調べました。大人だから知っているんじゃないと思っていましたが、意外と知らないままにしていることが多いのです。先生や川上さんからのご助言をいただきながら、進みました。「ぜひ、おすそわけをしてください」その言葉に勇気づけられ、感動をしながら、学んでいき、人と繋がる。そんな大人塾でした。



5) 個人発表 松原さん

私の目的は、杉並区を知る、仲間を作る、そして自分見せです。自分から動いてみると、ワクワクしますし、人と話しあうと固定観念をとりのぞいて、発想をかえられます。おすそわけの精神も大事です。手ぶらではなく、自分見せの何かを持ってこよう。そこから新たな広がりが生まれます。学生のときのように、仲間と共にわかちあう喜び、楽しさを学びました。大人塾の先輩が立ち上げた会、ハーブの会、阿波踊り、震災支援の会などに参加し、刺激を受けました。この塾で、考え方、受け止め方、行動がひろがりました。自己表現や自分からの発信の仕方を学びました。

帰り道は、一緒に歩く仲間もでき、人生が豊かになった気持ちです。深くゆっくりやわらかくつながりたいと思います。支えあい精神でつながります。こちらは、途中でどんぐりの帽子です。自然や手作りのものを愛する気持ちをおすそわけしたいと思います。どうぞお持ち帰りください。ありがとうございました。

3 夜コース発表

1) 夜コース学習支援者 広石拓司

夜コースでは、自分たちで街歩き、ワークショップを作ることをしてきました。それぞれが色んな気付きや発見があったと思います。

町づくりや社会教育の関連で、先日、私のところに中東からのお客さんがありました。昨年エジプトやチェニジアで革命がおきましたね。独裁者がいなくなった後、リーダーと名乗る人は多くいるが、周りの人々にとっては降ってわいたような指導者で、敬意はもてません。おまけに、色んな人がリーダーを名乗るので混乱しますし、町づくりという点からもリーダーが好き勝手なことを各々で言っているのでまとまりません。そんな状況下にいる現地のジャーナリストやリーダーたちに、杉並の大人塾を紹介しました。

大人塾の目的は地域の担い手として活躍できる人を増やすこと。地域を考えるワークショップをつくっていき、地域の見方を変えて、自ら考える。受身としての住民ではなく、何かを提供する側の立場になるのです。自分が問題解決をする立場から見て、地域を見る。地域を歩いてみる。コーディネートすると、日頃見ていなかった場所や見方の気づきが生まれます。自分自身で問題解決のためのワークショップを企画し、自分たちでやってみる。自分で気付いたことを共有し、アクションプランを作ってみました。仲間と一緒にだと出来るが増えます。エジプトやチェニジアで、これからみんなで何かを作るリーダーを育てたらいいと彼らに話したら、そういうのは素晴らしいですねと言われました。

さて、今年は4チームにわかれて進みました。ここからは、実践したことを発表して頂きましょう。

2) きずな交流チーム

私たちのチームは、きずな交流カフェとして、引きこもりや話下手の人に集まっていたかくカフェとして企画しました。健康体操、アイスブレイク、折り紙、ゲーム(ゲーゴルゲーム。ピリヤードのようなゲーム)体験を通じてコミュニケーションの楽しさを実感してもらうのが目的です。異なるジャンルを体験することで、初対面の人とハッピーコミュニケーションを構築できるようにしました。

実は、最初は音楽シニアカフェでスタートしました。二転三転して、まとまらないことも多々あり、結局、きずな交流カフェというカタチで落ち着きました。健康体操は、頸椎の首コリや肩こりの体操です。アイスブレイクは、気持ちをほぐして、交流を促進することです。折り紙は、カエルさんや特別な鶴。正月用の鶴のようなものを作りました。最後は、ゲーグルゲームというお互いのコミュニケーションを促進するようなゲームです。

何をするか決めることがうまくいきませんでした。かえって相手の意見を尊重したり、気持ちを引き出す決め手になったと思います。こんなにも意見が違うんだと感動しました。夜9時ぐらいまで会議が長引いたこともあります。少人数の参加者でしたけど、ワークショップまで開催できました。テーブルクロスやお花など、リラックスできるような場作りに気を付けました。参加者の方たちが、来てよかった、楽しかったと感想をもって帰っていただくように話し合い、そのためには私たち自身が楽しまなくてはと感じました。私たちの楽しい雰囲気が伝わるはずですから。こういうことに気づけたのも、ワークショップをやった結果だと思っています。以上です。ありがとうございました。

広石さん：

だいぶ議論が白熱したり、話し合いがまとまらなかったことも多かったようですね。最初は、音楽カフェだったのに、最終的には引きこもりだった方も参加できるようなカフェになりました。何が、転換点となったのでしょうか？ どうしてうまくいったのでしょうか？

2) きずな交流チーム発表者：

「あれもダメ、これもダメ」と消去法ばかりで、議論が進まず、もう辞めようかという状態になりました。やはり、せっかくこういうチャンスに恵まれたので、なんとか続けようと言って、それぞれの得意分野を持ち寄って、やってみようとなりました。つながりがないようにみえますが、人見知りがあったり、打ち解けるのが難しく感じている人にとっては、いろんな形の切り口が合った方が良かったのです。折紙、運動、ゲームなど、どれかヒットするかもしれません。心を打ちとけるのは、折紙かもしれませんし、運動かもしれません。きっと、それぞれのキーワードでヒットするのです。

広石さん：

ワークショップの時に、初めてこんなに知らない人と話せたと感動された方がいたり、遠方からの参加者もいらっしやっただようですね。問題を乗り越えて良かったですね。地域活動でも、いろんな問題がでてきます。意見がぶつかったり、行動がうまくいかないこともあります。各チームとも、よくやってくれたなと思います。それでは、次のチームです。

3) シェアする暮らしコレクティブハウスチーム

コレクティブハウスというのは、コレクションという言葉からイメージしやすいと思いますが、ひとつ屋根の下でそれぞれが固有のスペースと共有のスペースを持ち、みんなで協力しながら生きていく住まいのことです。ワークショップは、コレクティブハウジングの共通認識をもっていただき、自分の課題として考えていただくことを中心にしました。どうして、コレクティブハウスを考えるようになったのかというと、少子高齢化、震災後の安心安全など、いろいろな社会的な情勢が変わりつつあり、絆を求めた新しい暮らし方を提案しようと考えたからです。また、杉並区は空き家が多いので、考えることは問題の解決になると思いました。

最初に自己紹介をへて、参加者を4つのグループにわけ、NHK クローズアップ現代の「すまいをシェアしてみませんか？」という番組を見ました。そのあとに、ディスカッションしたのですが、あらかじめ聞いていた年齢や性別をもとにバラつきの少ないグループを割り振ったのでスムーズに話し合えたと思います。もちろん、著作権もありますのでNHKに確認をとりました。セミナーに参加したり、見学にも行き、それぞれが意識を高めていきました。おとな塾の経験が、自分たちがワークショップを開催したときに、とても活きていると感じ、感謝とともに驚きもしました。

最後に、感想文を頂いたので、ご紹介します。「コレクティブハウスについて入口を示して頂いた。興味のある内容なので、これからも情報を提供してほしい」とか、「参加して有意義な時間だった」「もっと集まりに参加したい」「自分にとってタイムリーな話題であった」と、皆さんが有意義な時間を過ごされたと感じました。私たちチームとしては、達成感と喜びがありました。これだけで終わってはいけな思考え、「新しい暮らしを考える会」を発足させ、これからも考えていきたいと思っています。

4) まちの物語チーム

参加者同士の交流を通じて、まちを理解してもらったり、まちに愛着を持ってもらうことを目的としたワークショップです。一人暮らしの方などは、地域とのつながりも薄く、長年住んでいても地域への理解の機会が少ない方もいます。そこで、地域を理解することを目的としたワークショップを開催し、杉並区を刺激していきます。

ワークショップは3つに分かれています。アイスブレイク、地図、振り返りを通じた意見交換です。まずは、初めて会う人との心理的負担を減らすため、アイスブレイクではペアで似顔絵を書きました。

書くことへのニガテ意識をとりはらうため、聞き手と反対の手で書きました。さらに、参加者がリラックスできるようにマットをひいて、靴を脱いだり、椅子の配置、BGMの工夫しました。メンバーが、手作りの茶菓子も作っていただきました。

1人1人書いた絵地図を、みんなでつなぎ合わせた1つの大きな地図にしました。まったく新しい地図を自分たちで作ったのがポイントです。自分で発見できなかった杉並の風景に気づくことができたり、他人が街中で注目する視点が違ったことが面白かったです。興味深い意見なのですが、自分がつくった地図が他の人に刻まれるのは抵抗があったが、新しい地図が生まれるのを間近で見られたのが感動したという声も頂きました。

ワークショップを終えてみて、いろんな隔たりを乗り越えられるような場所があるとよいと思いました。地図作りをへて、自分の生活を省みて他人に伝えたり、逆に他人の生活を地図から共感もできます。このような方法でも、杉並の物語を作ったり、発見できると感じました。価値観や背景の異なるメンバーが集い、ひとつのワークショップを作り上げたという体験がとても良かったです。

5) ふるさと灯りまつりチーム

杉並のカントリーサイドと呼ばれる、下井草、井荻、上井草地域を手作りの灯りをつくって照らそうというイベントを開催すべくワークショップをしました。「第1回ふるさと灯りまつり」を目指して、ワークショップではメンバー募集と、まつりの構想とスケジュールの周知を目的としました。また、「人の輪が楽しい。参加すると楽しい」と思ってもらえるように工夫をしました。このワークショップのそもそものきっかけは、井草地域に住んでいるメンバーの声からでした。井草地域の課題として、さみしい、人材不足、地域活動に参加できる余裕がある人がいない、個々の団体で活動しており、つながりが無い。このような課題はありましたが、メンバーの中には井草地域に住んでいない人もおり、「イベントは楽しそうだね」「灯り作りは楽しそう」と課題を特に考えてはいませんでした。

ワークショップは、ミニ灯り作り体験とディスカッションの2部構成です。手を動かして、灯りを作ってみると参加しやすいと考えました。その後、親子で参加できる祭りをみんなで話し合いながら考えました。楽しい雰囲気で行いたいということと、押しつけはしないことを念頭にしました。楽しくって、自分たちで行いたいのが祭りです。

22名の方が参加し、楽しかったという意見が90%でした。目的は達成できたと思いました。どんなワークショップか先にわかればよかったという声や、今後の祭りのことにも意見をいただきました。ワークショップを通した気づきですが、まずはこれから地域に大き

な風物詩を作ろうと活動していますが、まずは「みなさん、灯りでつながろうよ。ふるさと井草で」運動を広めるのが最初だと思っています。ちょっとした参加でも、大きな地域プロジェクトへ参加できるという気づきがありました。課題はまだありますが、ぜひ楽しい祭りに育ててくれる人を募集しておりますので、ご参加くださるようお願いいたします。

6) 個人テーマ発表

小川さん

会社人間の私としては、ワークショップや書くこと、作ることなど、すべてがとても刺激になりました。やっていくと、会社人間の立場を忘れて、みなさんと一緒のコミュニティーを作れたらと思うようになりました。最初は緊張しましたが、グループワークをしながら接していくと、こうしてコミュニケーションが生まれるんだと気付きました。町歩き的时候には、自分が好きな場所を話しあって、おすすめしあっていました。みなさんと周っていくと、強い達成感を感じました。利益をおわず真剣に考える人たちとテーマを共有できたことは私の人生で素晴らしい経験となった。コレクティブハウスを最終的にやることになりました。これからの暮らしを真剣に考えている方と話していると、これはやらなければと思い始めております。4月を目安にして、「新しい暮らしを考える会」を発足して、コレクティブハウスを進める活動をすすめたいと思っております。メンバーのみなさま、ありがとうございます。

7) 伊藤さん

朗読やレクリエーションなどをやっていますが、これを地域にどのように活かそうかと考えておりました。ふるさと灯りまつりチームの一員として活動をしておりましたが、表現活動をしている身としてはピッタリ同じ目的で動くことはできませんでした。それぞれ家庭や仕事を持ちながら、自分にできることをやっていくのは素晴らしい点です。

ワークショップでは、それぞれの持ち味を活かしながら、チームワークをうまくつくれました。きっと次につながるワークショップになると思います。みなさんとのつながりを大事にしながら、私にできることは何なのかを考えると、井草地域で灯りを活かし、地域活性化に結びついた朗読会を目指します。メンバーのみなさま、ありがとうございます。

8) 木塚さん

ソーシャルアクションを起こしたいと思い、入塾しました。こうして、ともに考え、行動をする体験をへると、お互いのつながりが強くなり、活動自体もひろがりを見せていま

す。こういうのもソーシャルアクションだと実感しています。

町歩きは、善福寺から荻窪まで歩きましたが、すごく良かったです。初めてじっくり町を見られたのは貴重な体験でした。受身側ではなく、主体的なワークショップを作れたのが大きな点だと思います。チームをつくるのは大変という声はありますが、地域の活性化という源があったので、まとまってきた。これを、総発的なコミュニティーの芽生えと呼んでいます。アリがアリ塚を作るときには、アリ塚を作ろうと思っはけません。結果として、アリ塚になっているのです。地域活性化も似たようなもので、自ら動くことで、地域が活性化していくと思います。

私は、井草ふるさと灯り祭りに参加しています。明日、この企画のキックオフを井草で行います。ぜひとも、ご参加ください。今後3年のうちに、地域社会へ情報を発信し続け、多くの仲間を巻き込み杉並の新しい風物詩を創造していきます。

9) 足立さん

もう1回留年したいほど、楽しく学ばせて頂きました。本番はもちろのこと、打ち合わせは本当に有意義で、若返る気分でした。これからも、井草ふるさと灯り祭りには参加させていただこうとおもっています。

アクション宣言といたしまして、私は今後3年以内に杉並のシンボルの鳥をカワセミにする運動をします。杉並でこんなにカワセミを見られるというのは素晴らしいことです。カワセミは、清流の宝石とも呼ばれるので、彼らが住んでいる地域は自然が豊かという証拠です。区の鳥と認定して頂きました暁には、カワセミ見守り隊、区民のコミュニケーション活動のひとつとしてカワセミ写真展、カワセミの巣を見つける探検散歩の会などを開けたらよいと思います。みんなから杉並って、どんな町と聞かれたら、「みどり豊かに風さやか、カワセミ住む町杉並区」と答えたいと思います。

10) 綾部さん

地域での活動を8年ほどやっておりますが、同時に友人が武蔵五日市にいたので耕作放棄地を無料でかりて、いろいろな作物を作っています。おとな塾から、一緒に作物を作る仲間も見つかりました。素晴らしい人との出会いが刺激となって、ますます元気になりました。我々の世代には、ワークショップという感覚がないのです。おまけにコレクティブハウスなど難しい言葉がでるたび、チームのメンバーに支えられて、ついていけました。自分の存在を確かめ、楽しく安全安心に暮らしたいとの願望と、他人との繋がりを求めていると強く感じました。

私は、今後五日市大人遊びの活動を広報し、自然と人の絆を深める仲間を増やします。

2年以内に、杉並とあきる野市のつながりを作っていこうと思います。杉並区全体をコレクティブハウスと考えると、共同の絆サロンがあるわけです。そういう場所は杉並区にあるのですから、そこを活かしながら、つながり作りの活動拠点にしていこうと思います。

司会者：

皆勤の方を表彰したいと思います。お名前をおよびしますので、前にいらっしゃってください。それぞれのコースの先生にお渡ししていただきます。賞状授与式でございます。まずは、昼コースから。

昼コースの皆勤賞は

西崎泰司さま、広瀬さま、松原さま

おめでとうございます。

夜コースの皆勤賞は、

伊藤さま、小川さま、金子さま、木塚さま、中村さま

おめでとうございます。

それでは、休憩のあとからワークショップに入りたいと思います。みなさま、おつかれさまでした。